

2021 年 12 月 27 日  
小平市公民館運営審議委員  
白井靖夫(オンライン参加)

東京都公民館連絡協議会委員部会研修会

期日・会場:2021 年(令和 3 年)12 月 15 日 会場:日野市公民館

講師:菅沼七三雄講師(小金井市公民館審議委員)

講話主題:「公民館を育てる仕組み、支える仕組みを考えてみよう。」レポート

1. 小金井市の公民館活動:菅沼講師は、2006 年から地元小金井市に目を向ける活動の場として公民館支援活動において中心的立場で企画運営委員、運営審議委員として活躍されてきた。小金井市は現在 5 館公民館体制で運営されている。令和元年現在 120 講座中、89 講座が企画実行委員と職員により企画運用される講座。10 講座が公募市民と企画実行委員と職員(準備会方式)で企画運用される講座。21 講座が市民のみで運用企画する自主講座である。また貫井北センター(図書館、公民館、などがある生涯学習の場所。280 平米。)は、「NPO 法人市民の図書館・公民館こがねい」に事業業務委託運営されている。
2. 小金井市における準備会方式講座:学級主体づくりは市民であり企画準備の段階から市民が参画するという考え方から市民、企画実行委員、職員で試行した講座設立方式で「シルバー大学」、「子どもの人権」ほか 3 講座が「準備会方式」である。「準備会方式」講座の開始によって①公民館活動に興味の薄かった市民の人材発掘②地域づくりの人材の成長と養成及び将来の企画実行委員養成。③価値感の違う世代が集まり魅力のあるテーマづくり等が期待できる。
3. 公民館活動における市民と職員:市民と職員は車輪の両輪である。相互に助け合い進めていく。公民館における学習は市民が主体で行われ、市民が企画編集し職員はそれを支援、助言、全体調整を行うことが望ましい。
4. 感想:菅沼講師の講話から事業企画委員の重要性とそれをさらに事業企画委員の開発も兼ねた方式として市民が企画準備段階から講座に参加する「準備会方式」という講座設立は興味深かった。また事業企画委員へのモチベーションを高めるための研修や報酬支給の必要性も全く同感である。多くの市から「居場所づくり」としての公民館の役割が述べられたが小金井市の貫井北センターの NPO 事業委託運営は小平市で現在予定されている小川西町公民館再開は参考になると思う。  
また異世代の情報交換や共有は今後の課題であるという意見も他市公民館からあった。  
WIFI 設置はどの市においても課題であるという発言があった。  
国立市から地元に住むアジアの人たちとどのようにつながるかという報告はすでに外国人市民への居場所づくりにも含めて考える時期に来ていると感じる。